

38-39

ふた

No. 7

女の足の指

丸本砂土



女の足の美は、靴から上の部分のみに限ら
れてゐる。あるかゝの靴の美は、勿論女の美
の大華な一つである。けれども靴の中に隠れ
た足の指の美と、それ以外の美とは、

日本には、素足の美がある。昔の日本の身
一た女の足の美は、この裾から隠れた素足の
美だ。素足の美とは、さうして足の指の美だ

この美は、従つて理外の外は、左崎岡一
郎の富美子の足かあゝの事を云ふ。

靴を履く女の足の指は、踏くやうに細い様
行つ靴のゆへ、奥の目と揃つ、中指が揃ひ世
り、中指が首と重れ、指の腹が爛れた等の美
みん憎んを有る事は、女のみかゝる秘密だ。
女の足の指は、靴の美の爲に犠牲にならざる
る。けれども日本の西洋に、日本の左の素足
の美は、さうな秘宝を有るやうな所とさういふ
法をさうない。二十年前は他逸ぶエルセ

十行 廿四

いつの廣止を倍々有る建築師にエルト
エ、ナリハカルク先は此の一人である。こ
の人は女の足の指の美を悦ぶ人、靴をやめ
て、希臘風のサンダルを穿く事を倍々好む
る。女を娘さん喜ん、この革の草鞋を好む
してゐる。

女の足の指は、女の指のやうに美しく見
ゆふとない。親指の内側の縁は、土踏ましの
一直線上に写し付けぬ。中指その他は、
一本一本おちしつと離れて、軟く、のびの

びと、先を尖り、十太い足のやうな爪
をつけしおちたおちた。富美子の足の
依るは、二本の指が並列のやうにくら着い
てゐるのを羨し、か、僅かおちつ、靴
を、前の方のやうな間隔をおつてゐる方が
嬌小やかに見えると思ふ。

僅かおちする女の方は、世に足の指を太
くして下さい。おんはマニキュアを、足は
ペリキユアを、鳥の爪のやうな爪を、
先黄のやうな爪を、白足(足の爪を脱ぎ、

借靴を暖り、大事に穿き、色も赤も褪
 めてしきり、なかりきり。所利は
 十一日

借靴を暖り、大事に穿き、色も赤も褪
 めてしきり、なかりきり。所利は
 十一日